

MINtS

細胞診検体採取・処理操作マニュアル

～細胞診検体採取・処理操作動画とあわせてご確認ください～

動画は下の QR コードからご覧いただけます

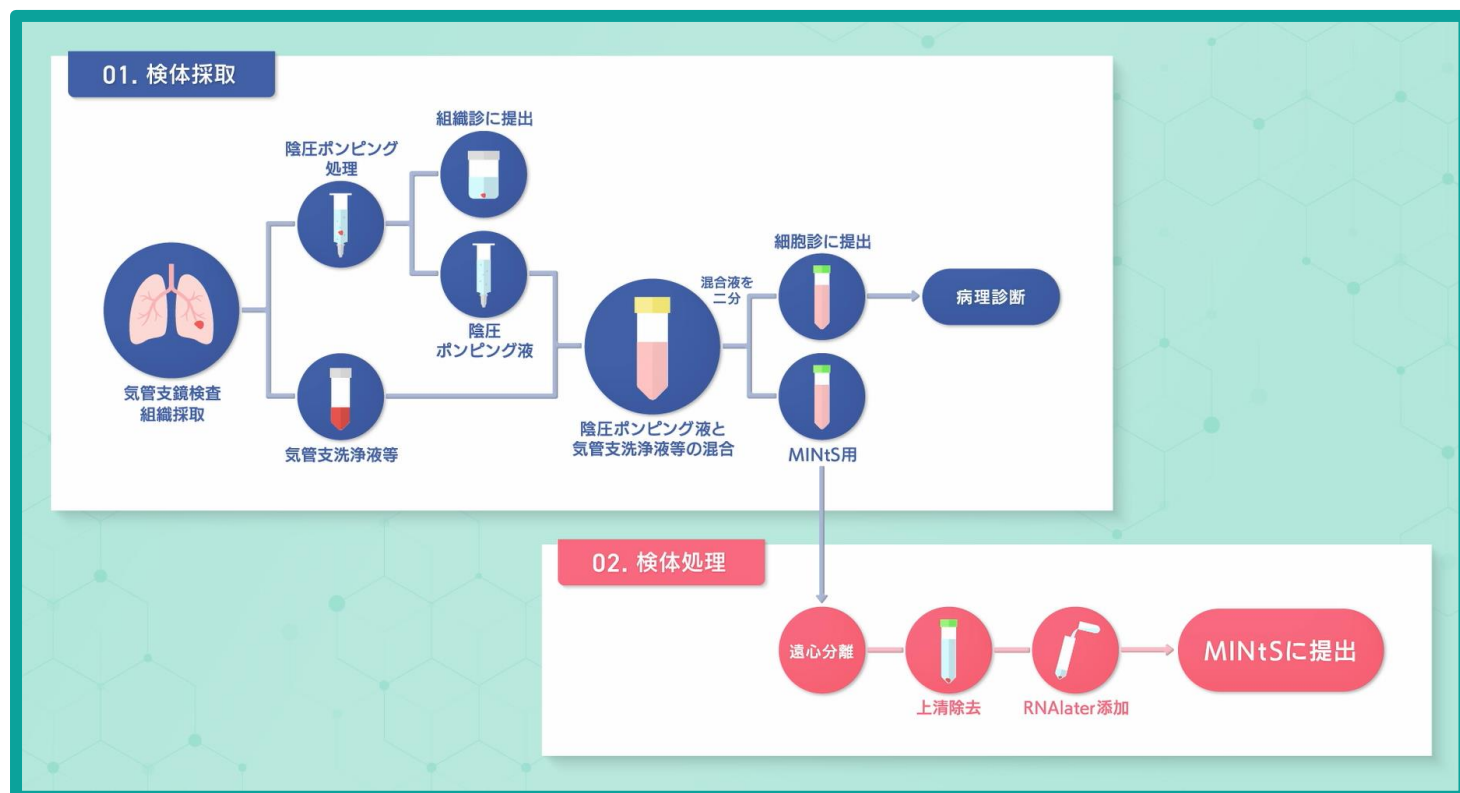




はじめに

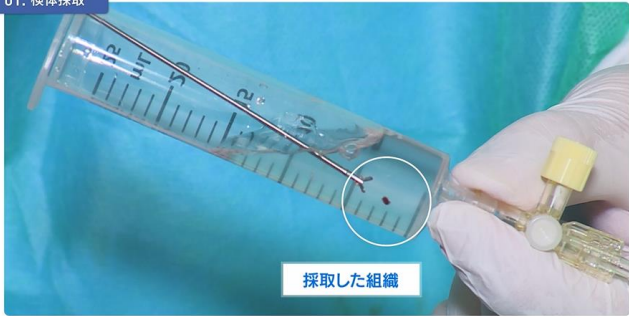
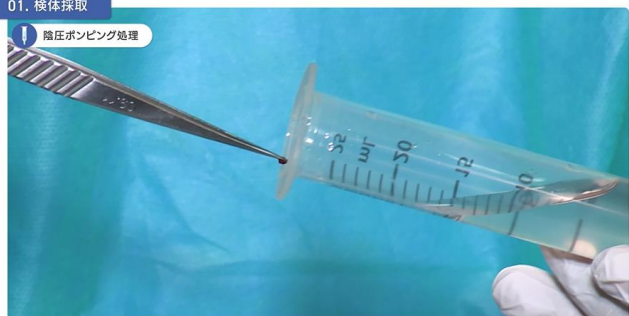
- MINtS は臨床側で提出検体を作製する検査です。
- 検体処理を適切に行うことで、良質な核酸が得られ、検査成功率の向上につながります。
- 操作手順、時間や温度等の条件を守り、適切な検体採取・処理のご協力をお願いします。

全体フロー





01.検体採取

検体採取・処理操作動画 画面		作業内容 / ポイント
組織診検体採取 陰圧ポンピング処理	1 01. 検体採取  組織診検体(採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。	組織診検体(気管支鏡検査にて採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。
	2 01. 検体採取 陰圧ポンピング処理  組織診検体(採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。	組織診検体を生理食塩水内で陰圧をかけて膨らませます。 間質性肺炎の病理診断提出用の組織診検体処理と同様の手技です。 ポイント この操作は、組織診検体から腫瘍細胞を処理液に遊離させるために行います。
	3 01. 検体採取 陰圧ポンピング処理  組織診検体(採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。	ピンセットで組織診検体を取り出し、ホルマリン固定します。 固定した組織診検体は病理診断に提出してください。
	4 01. 検体採取 陰圧ポンピング処理  組織診検体(採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。	シリンジ内の生理食塩水は交換せずそのまま使用します。 組織診検体の採取を繰り返し、STEP2～3の陰圧ポンピング操作を行います。 ポイント 組織診検体の採取の回数(生検回数)は各施設の実情に合わせて実施してください。
	5 01. 検体採取  組織診検体(採取した組織)を、生理食塩水を満たしたシリンジに入れます。	組織診検体の採取がすべて終わったら、陰圧ポンピング液が入ったシリンジは次の操作まで保管してください。(常温可) ポイント なるべく涼しいところで保管し、長時間の放置は避けてください。

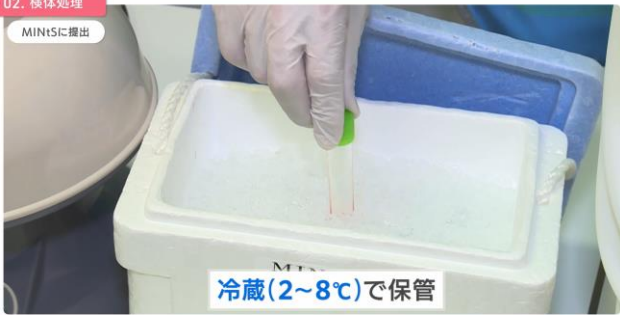


01.検体採取

検体採取・処理操作動画 画面		作業内容 / ポイント
気管支洗浄液等の採取 陰圧ポンピング液との混合	6 01. 検体採取 気管支洗浄液 ブラシ擦過液 気管支洗浄液+ブラシ擦過液 ブラシ擦過液での代用や、その両方を使用することも可能です。	気管支洗浄液を採取します。 ブラシ擦過液での代用や、気管支洗浄液とブラシ擦過液の両方を使用することも可能です。 (以下、気管支洗浄液等とします)
	7 01. 検体採取 陰圧ポンピング液と気管支洗浄液等の混合 はじめに、空のチューブに陰圧ポンピング液を入れます。	空のチューブに STEP5 で保管していた陰圧ポンピング液を入れます。
	8 01. 検体採取 陰圧ポンピング液と気管支洗浄液等の混合 混合量の目安は 1:1 ですが、血液の混入が多い場合は、気管支洗浄液等の量を減らし調整してください。	続いて、気管支洗浄液等を入れます。 混合量の目安は 1:1 です。 ポイント 血液の混入が多い場合は、気管支洗浄液等の混合量を減らし調整してください。 気管支洗浄液等「1」に対し、陰圧ポンピング液を「2～4」を目安としてください。
	9 01. 検体採取 陰圧ポンピング液と気管支洗浄液等の混合 混合した検体は十分に混和してください。	混合した検体を十分に混和し、二分します。 一方は MINtS に、もう一方は病理診断に使用します。 MINtS 用は 02.検体処理(p.5～)に進めます。 ポイント MINtS 用： 5 mL 以上 確保してください。 病理診断用：がん細胞(非小細胞癌)の有無を確認してください。
検体の品質保持のため、 STEP9の検体採取後 30分以内 に次の検体処理操作を行ってください		



02.検体処理

	検体採取・処理操作動画 画面	作業内容 / ポイント
遠心分離	10 02. 検体処理 遠心分離  採取した検体の遠心分離を行います。	MINTs 用に採取した検体の遠心分離を行います。 ポイント 遠心条件の目安は以下の通りです。 900~2000×g・3 min
	11 02. 検体処理  遠心分離終了後、検体のチューブを静かに取り出します。 このとき、衝撃を与えないように丁寧に取り扱ってください。	遠心分離終了後、検体のチューブを静かに取り出します。 衝撃を与えないように丁寧に取り扱ってください。 ポイント チューブの底に沈渣が形成されていることを確認してください。
上清除去 核酸保存溶液の混合	12 02. 検体処理 1 上清除去  上清をゆるやかに除去し、沈渣のみを使用します。	上清をゆるやかに除去し、沈渣のみを使用します。
	13 02. 検体処理 RNAlater添加  沈渣が残ったチューブに、核酸保存溶液 (RNAlater) を全量 (1.5mL) 添加します。	沈渣が残ったチューブに、核酸保存溶液 (RNAlater) を全量 (1.5 mL) 添加し、タッピングにより混和してください。 ポイント 沈渣を核酸保存溶液に確実に浸透させるため、転倒混和は避けてください。 転倒混和時にキャップ等に沈渣が付着してしまう恐れがあります。
保管	14 02. 検体処理 MINTsに提出  検体の品質保持のため、検体処理後は速やかに冷蔵 (2~8℃) で保管してください。	検体の品質保持のため、検体処理後は速やかに冷蔵 (2~8℃) で保管してください。 冷蔵 (2~8℃) で保管してください。 すぐに冷蔵保管ができない場合は氷上に置くなどしてください。



検体提出時の注意事項

- 細胞診の病理診断でがん細胞(非小細胞癌)が確認された検体をご提出ください。
- 検査成功率の向上のため、核酸保存溶液添加後の検体外観を参考に、優良検体の提出にご協力ください。

